

Geckolog Herp

レオパードゲッコー・ケアシート



基本情報

和名 : ヒョウモントカゲモドキ
英名 : Leopard Gecko
学名 : Eublepharis macularius
全長 : 20cm~30cm
平均寿命 : 10年

成長過程の呼称

| | 月齢 | 体重の目安 |
|--------|----------|------------------------------|
| ベビー | : ~3ヶ月 | ~25g |
| ヤング | : 3~6ヶ月 | 25g~50g |
| サブアダルト | : 6~12ヶ月 | 50g~ |
| アダルト | : 12ヶ月~ | 雌雄やモルフにより大きく異なるが標準的には60g~80g |

飼育環境

ケージ : プラスティック、アクリル、ガラス製のケージで脱走防止のために蓋がしっかり固定できるものを使用します。ケージ内を蒸らさないために蓋には通気口を設ける必要があります。成体時の大きさ1匹あたり20-40-20(w-d-h)cmを目安に個体のサイズに合った大きさを用意します。争いによる怪我を防ぐため単独飼育を基本とします。特に雄同士は短時間であっても同じ空間に同居させないこと。ケージは直射日光や窓際を避けて通気性のある場所に設置します。

床材 : キッチンペーパー、ペットシート、新聞紙を推奨。砂は消化器官内に詰まり重大な健康被害を引き起こす可能性があるため使用を避けます。特に体重40g以下の若い個体には使用しないこと。

保温 : 器具はパネルヒーター、ヒートケーブル等の下から暖めるものを基本とし、必要に応じて暖突の追加とサーモの併用を推奨します。ケージ内全体を一定の温度に暖めるのではなく、温度勾配を設けてヤモリがホットゾーン(30℃~34℃)とクールゾーン(25℃~28℃)を自由に行き来できるようにします。ケージ内の3/1~2/1をホットゾーンとします。

照明 : 夜行性で昼間は巣穴に潜っているため紫外線灯などの器具は必要ありません。

給水 : 水入れを常設し2日おきに新鮮な水に交換します。乾燥に強い種ですが水は切らさないようにします。霧吹きは不要です。本来乾燥地帯に生息する種のため、ケージ内全体に霧吹きすることはしないでください。

シェルター：昼間に身を隠す巣穴には一定の湿度を設けます。市販のウェットシェルターやタッパーの一部を切除して出入り口を設けて水苔やヤシガラを敷き詰めたものを使用することができます。

湿度：乾燥地帯に生息するヤモリなのでケージ内湿度が常に高い状態は避けます。衛生的にも管理が難しくなり病気の原因となります。ケージ内湿度は30%~40%あればよく、前述のシェルター内のみ60%ほどの湿度となるのが理想です。シェルターに加水して調整します。

脱皮：周期的に脱皮を繰り返します。脱皮が近づくと発色が白くぼやけてきますので、シェルター内の湿度を確認してください。前述の湿度が確保できていれば問題ありません。

給餌：Geckolog Herpではミルワーム、コオロギを中心にアダルト♀のみピンクマウスを併用しています。ミルワーム、コオロギは野菜、VIT-ALL、Caを与え栄養を蓄えたものを使用します。ジャイアントミルワームは脂質が多すぎることと顎が強く事故のリスクがあるために使用しません。

- ベビー** - 1日1回 食べるだけ与えます。
目安として、頭の半分ほどの大きさのコオロギ2~5匹。
またはミルワーム（小）5~10匹。
- ヤング** - ベビーに準じますが、給餌回数はときどき休んで様子を見て決めます。
ミルワームを使う場合は大きいものを選びます。
- サブアダルト** - 週に2~3回
目安として、コオロギは最大サイズのを2~5匹。
ミルワームは大きいものを選び10~20匹。
- アダルト** - 週に1~2回
個体の適正体重をみながら肥満に注意しながら給餌量を決めます。

ミルワームを使う場合は必ずカルシウムをダストします。コオロギを使う場合でもベビー、妊娠中のメスにはダストをします。カルシウムを体内に取込むためにビタミンD3入りのものを使用しますが与え過ぎに注意する必要があります。ダストの回数が多い場合はビタミンD3なしのカルシウムを用意しておく必要があります。

置きカルシウム：小皿に小さじ1杯ほどのカルシウムを盛って置きます。必要に応じて摂取する姿が見られるでしょう。ダストにD3なしを使用する場合はこちらをD3入りにおきます。

排泄物：糞は同じ場所に繰り返し排泄する傾向がありますが、同時に水分と尿酸を排泄します。溜まると臭いの原因になるため溜めずに取り除いてください。水分は床材に吸われると臭いが残るため定期的に床材を交換してください。